

第10回食料無料支援に98名来場 個別のお届けは79名

コロナ禍の2020年10月より季節開催してきた食料無料支援プロジェクトは、10回目の今回、福井市の「生活困窮者物資等支援事業」からの補助金が決まり、年末支援としてより多くの食料とティッシュ、マスク、使い捨てカイロ等の生活消耗品をより多くの方に届けようと準備を進めてきました。

市のフードドライブ事業として市環境政策課とハーツ学園が集めた品をいただき、補助金でたくさんの品を買い揃えました。また、協力団体の農村労組のつきたてお餅を加えるのは今年で3年目となりました。



また、会場まで来られない方58名分をボランティアや職員が手分けしてお届け。翌12月28日には、事前にチラシを配布してお知らせした足羽の団地にお届けに出かけました。雨の中、杖をついて来られる方、身体障がいがあり来られない方の分として、その方の身障手帳を証明に代わりに運ぶ方など21名が参加。これまでの食料支援では見られない姿があり、今後、出かけることが困難な方へのお届けの必要性を強く感じました。



12月27日(火)午後、恒例の県社会福祉センター体育館で開催。2時間以上前より待つ姿が見られ、急ピッチで準備を進め13時過ぎより受付開始。今回は、品物お渡しにとどまらず、医療生協らしく健康チェックで健康に目を向けてもらおうと同時実施を企画し、7名の医療スタッフが体脂肪、血管年齢、骨密度、血圧の測定を担当、ケアマネ1名が介護等の相談を担当しました。前回10月には駐車場があふれたため、事前に相談し駐車場2台分の臨時駐輪場を確保。



開始2時間以上前から待つ姿が見られ、急ピッチで準備を進め、13時過ぎに受付開始。30名以上の方が待ち構えていました。受付したら廊下でアンケート記入。少人数ずつ入室していただき、まずは健康チェックから。はじめは「すぐ品物もらえるのか?」と言っておられた方も多かったのですが、いざ入ってみると骨密度や血管年齢、体脂肪の測定はあまり受ける機会がないため大人気。待ち時間が生じ、全員が全てのチェックを受けることはできませんでしたが、「測ってもらってよかった」と喜んでいただく声もあり予想以上の好反応でした。体脂肪やBMIで肥満傾向の方が多かったのも特徴的で、ふだんの食生活の影響かと思われました。最終的に98名が来場し、健康チェックは約65名の方が受けられました。



来場者アンケート結果から (回収67名)

～来場者は「70代以上、独居が5割以上」で「食事の支援」を求め、「貧困対策」を望んでおられました。～

